

事務事業調書

平成27年度

事業No	489	課	土木課	係	道路建設係	起案者	都築博幸
						決裁者	杉浦互
事務事業名	橋りょう維持管理事業				事業種別	施設管理	

1 事業概要

総合計画体系	3 自然と共生した環境づくり 3 道路・交通 1 道路 2 道路の維持管理 1 維持管理			予算科目(会計)		一般会計		
				予算科目(款・項・目)		40-10-15		
				総合計画以外の計画				
				関連する総合計画の施策				
				性質区分	市の内部事務事業			
根拠法令	無							
法定受託事務	無							
公約・議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	全部委託	委託先	民間企業					
実施期間	開始	平成元年度	経過	26年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	橋りょう施設の			~になる	耐用年数が延びる		
事務事業の内容	橋りょうの状況を的確に把握し、橋りょうの点検、補修などを行います。 今後老朽化する道路橋の増大に対応するため、予防的な修繕及び計画的な架け替えにより、これに係る費用の縮減を図りつつ地域の道路網の安全性・信頼性を確保します。							
改善・対策の履歴	橋りょう点検により不良箇所の早期発見に努めました。 【平成23年度】橋りょう点検により不良箇所を早期発見し、姫樋橋上部工の修繕工事を行いました。 【平成24年度】橋りょう点検により不良箇所を早期発見し、小川橋床版、仏供田橋高欄塗装、通学橋及び東長先橋の親柱の修繕工事を行いました。 【平成25年度】橋梁長寿命化修繕計画により補修設計を行いました。 【平成26年度】橋梁長寿命化修繕計画により補修工事、補修設計を行いました。							

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	9,202	6,750	95,770	87,612	70,040
財源計	6,934	5,805	93,250	85,092	65,000
財源の内訳	国庫支出金	0	45,600	32,670	17,050
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	6,934	47,650	52,422	47,950
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	2,268 (0.36)	945 (0.15)	2,520 (0.40)	2,520 (0.40)	5,040 (0.80)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	老朽化補修工事	見込	1.00	1.00	12.00	5.00
			実績	4.00	1.00	10.00	
	指標名 (単位)	橋数(橋)	活動の総事業費(千円)	3,564	1,395	81,360	
			活動にかかるコスト(千円)	891.00	1,395.00	8,136.00	
活動2	活動名 (活動内容)	橋梁長寿命化修繕計画の策定(見直し)	見込	1.00	0.00	0.00	0.00
			実績	1.00	0.00	0.00	
	指標名 (単位)	修繕計画の策定(見直し)(式)	活動の総事業費(千円)	5,638	0	0	
			活動にかかるコスト(千円)	5,638.00	0.00	0.00	
活動3	活動名 (活動内容)	修繕工事設計	見込	0.00	10.00	5.00	8.00
			実績	0.00	12.00	5.00	
	指標名 (単位)	橋数(橋)	活動の総事業費(千円)	0	5,355	6,252	
			活動にかかるコスト(千円)	0.00	446.25	1,250.40	

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	橋の不良により通れなくなった橋数(橋)			目標	0.00	0.00	0.00	0.00
				実績	0.00	2.00	0.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	未達成	達成	
成果2	点検する橋の数(橋)			目標	76.00	97.00	128.00	34.00
				実績	108.00	147.00	128.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	橋りょう管理システムが活用し、点検した橋りょうの状況を入力することで、健全度を的確に把握することができました。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	- 橋りょう点検により早期発見した不良箇所の修繕を行い、大規模な工事になる前に対策ができましたが、結果的にコストは増加しました。 - これは、1橋ごとの修繕の規模が異なることが要因であるといえます。 - 橋長15m未満の橋りょうは職員により点検をしたため、コストの縮減ができました。
成果	- 早期に修繕を行うことで、通行止めにならずに済みしました。 - 職員点検により、各職員が橋りょうについての知識を高めることができました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案	
- 不良箇所の早期発見に努め、通行止めとなる橋りょうがないようにします。 - 橋りょうの修繕工事は、工種が多様多様にわたっているため、早期の発注により業者を確保する必要があります。 - 橋りょう修繕計画策定(見直し)には、適正な橋りょう点検をする必要があります。	

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	- 老朽化補修工事は、通行の安全性を確保するために継続して実施する必要があります。 - 橋りょうの維持管理は、橋りょうの状況や全体の事業計画を踏まえて、橋りょうごとに「架替前提型」「予防保全型」「事後保全型」の3種類に分類します。 - 橋りょう長寿命化修繕計画は莫大な修繕費がかかる橋長15m以上または重要度の高い予防保全型の橋りょうにおいて策定(見直し)することで、今後の維持管理に掛かる費用の平準化に努めます。